

平成26年度 住吉高校学校協議会次第

平成26年6月20日(金) 18:00~19:30
大阪府立住吉高等学校 会議室

委員紹介

大阪大学名誉教授・台湾大学客座教授 放送大学客員教授	笠井 俊夫 様
大阪大学ナノサイエンスデザイン 前府議会議員(住吉高校OB)	若林 勝雄 様
大阪市立阪南中学校 校長	柴田 俊次 様
住吉高校後援会会長	川下 昭彦 様
住吉高校PTA会長	波々伯部 益尚様
(教育研究センター特任教授 奥山 雅則様はご欠席)	

本校出席者 校長、教頭、事務長、岡本、山中、藤井、乾、久世、永山、木村

本校より各種事業・取組の報告

- (1) 本年度の学校経営計画について(校長より)
- (2) 平成25年度進路結果について(乾進路指導部長より)
- (3) 「骨太の英語力養成事業」について(斎藤国際文化科長より)
- (4) 国際交流について(藤井指導教諭より)
- (5) SSH事業について(岡本首席より)
- (6) ユネスコスクール活動について(山中首席より)
- (7) 生活指導について(永山生活指導部長より)

質疑応答

(委員)学校側の発言・説明が一人3分とコンパクトにまとまりすぎていて、質問をすることが難しい。もう少し突っ込んだ説明をしてほしかった。

(学校) 内容は、この後の協議委員からの質問に答える形で深めていこうと考えている。協議会委員の発言・提言の時間を長くとりたいとの配慮なのでご理解いただきたい。

(委員)校長より「学校の特色」という話が出たが、最大の特色とは何か？

(学校) 他の府立高校にさきがけて行っている TOEFL の授業のさらなる発展、他校をリードする SSH の課題研究、海外研修の8プロジェクト、海外への進学数、これらはいずれも府内でも際立った特色となっている。英語圏以外への進学も歓迎している。

(委員)海外研修や海外への進学は、費用面で保護者の負担となる。学校側からの援助などを考えては。

(学校) 後援会などからの援助も予算的に限りがあり、個人の参加費等の補助には至っていない。同窓会の全面バックアップによるケンブリッジ研修も始まったが、これは生徒側の費用的な負担はなく参加できる。また学校独自の開拓で、オーストラリア研修などはかなり安くなっている。海外進学については、たとえば台湾の大学に進学して、そこからアメリカに留学すると、直接日本か

らアメリカの大学に進学する場合の半額で行けるようだが、そういう情報も活用してほしい。

(委員)校長の経営計画の「情報発信」とはということか。

(学校) 高校を選ぶときに Web ページの情報が活用されている。そこで本校の Web ページの刷新を行う。また校長ブログも年間 560 回更新したが、中学校訪問の影響も含め、それらによって住吉高校へ目を向ける中学生の地域も広がっている。

(委員)生活指導については、遅刻・挨拶などに問題がある。それらが学習への妨げとなっているという意見もある。目標を掲げて、生徒に厳しく対応する必要を感じる。標準服はもっと活用されないといけない。常に着用を求めてもいいのでは。他校の遅れをとっている部分だと感じる。

(学校) 生徒指導については、地道な積み重ねとなる。遅刻についてはごく一部の生徒が遅刻を繰り返しており、指導も行っている。服装・頭髪については現状では教員間で指導に意見の違いがある場合があり、そこが問題なので、意見を出し合い統一した指導で臨めるように指示している。

(委員)制服・私服については、同窓会や PTA の方でもさまざまな意見がある。同窓会でも若いメンバーでは「私服であることが住吉高校のステータス」という人もいる。

(委員)北畠講習の成果は上がっているのか。

(学校) 北畠講習とは予備校の授業を土曜に行う、センター試験対策の有料の講習である。今年度は 60 名程度の参加。実際に効果があるのかどうかの検証は行えていない。実施後の生徒アンケートでは、よかったという意見が多かった。もちろん生徒は国公立大学への進学をがんばってほしいが、それ一辺倒ではなく、海外の大学や早稲田慶応等の東京の大学への進学等、幅広い進学先に目を向けでもらいたいと考えている。

次回開催について

平成 26 年 10 月 10 日（金）の予定（SSH 運営指導委員会に引き続き）